

2017 年登山道侵食調査および野営指定地調査予定

北海道大学大学院地球環境科学研究院・環境科学院

渡辺悌二・小林勇介

(1) 登山道の荒廃に関わる調査

去年までに引き続き、登山道侵食調査に関わる調査を以下の3箇所で行います。

【場所1】姿見＝旭岳＝中岳分岐＝裾合平＝姿見

【時期】7月上旬から9月上旬

【調査方法】「7.5m一脚 (LUMICA Birds iRod 6G-7500)」を用いたコンパクトデジカメによる写真撮影測量を行います。この一脚は主としてマスコミが使用している一般的なものですが、研究では使われたことがありません。登山道の調査には効果的であると思われ、試験をしてみたいと考えています。撮影をする際は、登山者数が少ない7月中旬とピークを過ぎた9月の平日に実施する予定です。また、撮影の際は周りの植生に害を与えないよう注意を払います。調査は3～4日ほどで終わる予定です。

【調査者】北海道大学大学院地球環境科学研究院 (渡辺, 小林, 常)

【場所2】北海岳＝北海平＝白雲分岐, および【場所3】黒岳石室周辺

【時期】7月上旬から9月の平日 (3, 4日間), ただし, 天候で変更の可能性があります。

【調査方法】北海岳～北海平および黒岳石室周辺で, 侵食されやすい堆積物の厚さ推定を行い, 将来の侵食予測に繋がります。侵食されやすい堆積物の厚さの推定には, 土壌のコンパクションを測定する「非破壊式」の測定装置 PANDA2 を用います (昨年と同様)。

また, ドローン (UAV) を用いた空中からの写真撮影を行います。ドローンを用いた空撮に関しては【場所2】北海岳＝北海平＝白雲分岐で, 昨夏までと同様に撮影を行い, 過去の侵食量の推定を行います。【場所3】黒岳石室周辺では天候などを見ながら撮影を行います。

閑散期の平日朝など, 登山者の往来がないことを条件に行います。その他, 風速毎秒 10m以上の強風時には調査を見合わせます。調査時には最低2名配置し, 登山者・野生動物の往来の確認といった安全確保に努めます。調査時に登山者の接近が確認された場合, ドローンを一時的に着陸させ, 万が一の誤作動に備え電源を切ります。

【調査者】北海道大学大学院地球環境科学研究院 (渡辺, 小林, 張)

(2) 黒岳野営指定地の面積・地表面形態調査

7月から9月に黒岳野営指定地で, (1) 「7.5m一脚」を用いたコンパクトデジカメによる写真撮影測量, (2) ドローンによる写真撮影を行います。

【調査者】北海道大学大学院地球環境科学研究院 (渡辺, 王, 張, 常, 小林, ほか)

(3) 黒岳野営指定地と黒岳石室利用者へのアンケート調査

7月から9月に黒岳野営指定地および石室利用者に対して, アンケート調査を行います。

【調査者】北海道大学大学院地球環境科学研究院 (渡辺, 王, 張, 常, 小林, ほか)



【場所1】の調査予定地域



【場所2】および【場所3】の調査予定地域（左：北海岳～北海平，右：黒岳石室）

2016年冬以降の調査結果のまとめ

- (1) 黒岳および旭岳ロープウェイ利用者へのアンケート調査（外国人旅行者の割合，大雪山グレートの認知度，ジオパーク化に関する調査）
- (2) 主要林道の入林者データの解析

2017年4月に英語地形図 Asahi-dake, Heart of Daisetsuzan National Park を出版